

## マリ人スタッフを中心に現地活動を再開しました

3月21日に発生したクーデターにより、マリ国内は政治的には北部が武装組織によって独立宣言し、また南部の暫定政府も民政移行に向けた大統領選の見通しが立たないなど混乱が続いています。しかし、人々の生活は多少の物価の高騰はあるものの、避難していた人々が戻り始めるなど落ち着きを取り戻しつつあるようです。

去年の今頃は既に日本人を派遣し、雨期に向けた植林の準備に入っているところですが、現在のところこの混乱により日本人を派遣できません。そのため、5月からマリ人スタッフを現場に派遣して、試験地の管理、苗木配布や植え付け後の生育確認などの活動を再開しました。

### まずはファナ地域での活動から

5月から再開したのは、首都バマコから東100kmに位置するファナ地域です。マリ人スタッフの安全も考慮し、軍の駐屯地のあるカティを通らなければならないバマコ北部地域や、北の独立宣言した地域に近いモプチ地域やジャラッサグー地域を避け、最も危険度の低いファナ地域を選んでいます。

また、ファナ地域では5年前から活動を始め、首都から近いこともあり、荒廃地の試験地を設置したり、多くの村へ苗木配布をしたりして、より地域を把握していることも再開した理由の一つです。



図 再開したファナ地域の位置

### 雨期は苗木配布、乾期は植林樹の生育確認と試験地の管理

5月の終わり頃からマリは雨が降り始めます。9月の終わり頃までの約4ヵ月間は雨期で、木を植えるには最も適した時期です。

マリ人スタッフが月に2



ボディゲンドゥ村人による植樹 (トラオレさん撮影)

回ほど現場へ行き、これまで関係のあった村を訪れて苗木配布をしてもらいます。苗木は地域苗畑から購入し、資材や種子などを支援し苗木生産を助けます。それと並行して過去に植えられた樹木を見て回り、生育状況を確認してもらい、問題点があれば改善してもらいます。

10月以降乾期に入れば、マリ人スタッフを月に2回現場に派遣し、苗木配布よりも植え付けた木の生育確認を重点的に行い、必要があれば保護柵の手直しや補植などを行います。昨年行った学校林については特に力を入れていきます。

また、並行してファナの荒廃地試験植林地への草刈りや水やりなどの管理を行っています。



ボディゲンドゥ小学校で校長と生徒による保護柵補修（トラオレさん撮影）



自動車に苗木を積み込むコニバ・ジャラさん（トラオレさん撮影）

今年は情勢が安定し日本人が派遣できるまで様子を見ながら、マリ人スタッフによる現地活動を進めていきます。

（榎本肇）

表 マリ人スタッフによる植林活動

時期	活動
雨期 6～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村人に苗木を配布</li> <li>・地域苗畑の苗木生産支援</li> <li>・植林樹の生育確認</li> <li>・問題点の改善</li> </ul>
乾期 10～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植林樹の生育確認</li> <li>・保護柵の手直し、補植</li> <li>・試験植林地の管理（灌水）</li> </ul>

### マリ人スタッフは百戦錬磨

ファナでの活動を行ってくれるのは、サヘル 87号でも紹介したマリ人スタッフのマドゥ・トラオレさんとコニバ・ジャラさんです。トラオレさんは運転手・通訳だけでなく常に日本人と同行して活動を補佐してくれています。ジャラさんはバマコ事務所の苗畑の管理を行い、現場にもたびたび連れて行って活動を補佐してもらっています。そのため地域のことも良く把握していて、日本からこことこの村に行きたいと指示して、活動を進めてもらっています。

トラオレさんからは現場を訪れる度に報告書が届いています。最新の報告書には携帯電話で撮った写真が多数添えられていて、状況がよくわかります。

No.90 2012.6 サヘル

### 七夕募金にご協力をお願いします。

日本人がマリに派遣できないとなかなか助成金が下りず、混乱が続くようであれば資金的に苦しくなり、活動の継続も危ぶまれます。マリ人スタッフを中心とし、村人で行う小さな林づくりを支援していくためにもさらなる皆様のご支援が必要となります。この活動には 85 万円ほど活動費がかかります。今後混乱が収まり日本人を送れるようになるまでの活動のために七夕募金へのご協力をお願いします。



## 野宿したあの辺りは今どうなっているだろうか？

小島通雅

初期に活動していた北の地域は首都バマコから遠い。そこは遊牧民の世界で、人口密度も低く、隣の村や町との間隔も開いているし、ホテルなどの宿泊施設も整っているわけではない。したがってバマコから現場に行くにしても、日本への電話連絡のためにトンブクトゥへ出るにしても、車の故障があれば即野宿となる。野宿は決して珍しいことではなかったが、以下はその中でも特殊なケース。

### ラクダの旅での野宿

現場とトンブクトゥとの間はラクダでも何回か往復した。プロは1日で駆けるが、素人の小生は途中で一泊か二泊する。車で行き来する時とは違って、殆ど直線ルートで砂漠や草原の中を上ったり下ったりする。最初の何回かは季節を変えて物見遊山の旅。最後のそれは治安悪化で日本人は現場のファギビンヌからトンブクトゥへ引き上げていたとき。危険だからと現場に行くことは禁じられており、街で街路樹を植えたり、警察署の庭に行って木を植えながらファギビンヌ地方の様子を聞いたりして悶々と日々を過ごしていた。

ある日署長に「車で行ってはまずいというが、ラクダでなら良いだろうか？」と聞くと、向こうもまさかほんとはラクダで行くとは思わなかったようで、「ラクダで行くなら良い」と気軽に返事した。これ幸いと現場からハンマー（元スタッフ）が出てきた時にアルー（元スタッフ）と3人でラクダを連れて出発し、まずは近郊のテージャックへ向かう。そこで友人から借

りた服ですっかり現地人風に化け、夕闇にまぎれてトンブクトゥを離れる。

一晩目はまあ良かったが、二晩目にファラッシへ越える岩山の峠にかかった頃は強い風と激しい雨となり、岩陰で分厚いシートをかぶって夜を過ごす。ファギビンヌ旧湖底に入ってティンナファラッジに着いた頃には天候は回復、至極快適と言いたいところだが、紛争で西のほうから避難してきた大勢の村人、家畜でゴった返している。これから西の方、ティンナイシャの方へは危険だから行くななどのことで早々に退散し、帰りは途中で一泊しただけでトンブクトゥに戻る。小生はその後何日も経たずに日本に帰国し、なんのおとがめも受けなかった。しかし、後で警察は小島がファギビンヌに行ってきたと知り、会の事務所には警察からのお調べがあったとか。

### もう一つの問題の野宿

これは反乱軍に捕まって強制された野宿。しかし小生にとっては精神的な面を別にすれば、通常の野宿と大差なく過ごせた夜だった。

1991年5月中頃、当時はファギビンヌの治安悪化でトンブクトゥとの中間にあるグンダムまで引き上げ滞在していた。もう一人の日本人スタッフとガイドにマリ人を一人連れてファギビンヌ湖入口のビンタグングまで行く。建設中の苗畑で仕事の打ち合わせを終えて、次の活動地を探すべくグンダムへの裏道を通って戻る。途中なぜこんなところに車のタイヤの跡がたくさんついているのかちょっと不思議な所を通る。当時、砂の表面に夕

イヤで凹凸をつけ、草の種子を播くという緑化の試みについて聞いていたのでそれかと思う。少し走って疎林の木陰に車を止めた時、周辺から3、4台の車に分乗した十数名の兵士<sup>注1)</sup>が現れ、あっという間に捕まってしまった。明朝グンダムの街を襲撃しようと山陰で準備しているところへ踏み込んでしまったらしい。

若い兵士たちの他に総帥というかパトロン風の老人がおり、幸いなことに彼は小生を見知っていたらしく、我々サヘルの森（会）はマリ政府とは全く関係なく地域の村人たちと植林を進めているとリーダーの兵士に説明してくれた。そこで客人のような扱いとなる。車は取り上げられたが、ゴザを出してくれ食事をふるまってもらい、夜には寒くないようにと毛布まで貸してもらって夜を明かす。真夜中過ぎに何台かの車に分乗してグンダムの街を襲いに出撃したらしい。朝10時頃、中央から派遣されてきている役人、要人を標的にした作戦に成果を上げて整然と戻ってくる。その間留守番の何人が来てきぱきと撤収の準備をして、全員がそろった所で我々が昨日やってきた道を引き上げていった。

車は奪われたが金品などは押収されることなく無事釈放となる。1～2km離れたところに住む遊牧民のところでラクダを交渉して、二人でグンダムまで戻る。それから首都バマコに、車もなく手持ちの金も僅かで戻ることが大変なのだが、野宿の生活についての話はここで閉じる。

注1) 迷彩服や軍靴を少しずつ身にまとった一団。今年4月北部3州の独立宣言の中心となったMNLA（アザワド解放国民運動）の前身の者達。

## 彼らの闘争は野宿の連続

マリだけでなくここ1、2年に限っても、各地で様々なことが起こっている。現在ではそうしたニュース、映像は瞬時にして世界を巡る。次々に入ってくるそれらへの我々の耳目はどうしてもその事象の大きさ、酷さなどに引き付けられてしまい、そうした事象をグローバルな傾向として把握し意味づけてしまいがちである。それぞれの地域に何か繋がりがあり係わりがある者のみが、過去からの経緯を含めて地域の状況や現在起こっていることの意味に考えが及ぶ。

マリ北部で言えば、人々は砂漠の広がる中で、地産地消ならぬ自家生産自家消費とも言うべき遊牧をベースに週一度開かれるローカルな市場経済で生活している。小生たちが襲われたのは十数年前、一連の武装闘争が何回目かの独立運動であると聞いていた。その後フランスなどの仲介で反乱軍の一部がマリ共和国の正規軍へ編入され、さらに離脱するということがあった。その間砂漠の中を野宿しながら長い闘争を続けてきたであろう。独立を宣言したが、これから彼らの歩む道は砂漠に延びる道ではない。彼らが仲間入りしようとしているのは、全てが定住を前提として社会制度、政治制度などが組み立てられている国家という仲間だ。



## 定例活動の楽しみ

定例担当 坂場光雄

### 定例活動への招待

サヘルの森では毎月1回の定例活動を実施しています。その目的は会員交流、技術研修、人材育成などです。いろいろな地域・施設を訪ね、自然や歴史を学びながら、会員や地域の人々との交流を行なっています。

事前にコースの全部をチェックしているわけではないので、道に迷ったり、時間配分が不十分で目的地までたどり着かなかったりすることもあります。それも一興。不十分な情報も、研修・訓練と考えながら、行なっております。

地域に暮らしていて、名所や施設の名前を情報として聞いていても、案外、現地に出かけていないことが多いと思います。足を動かし、風を感じながら、大木や季節の花、歴史ある施設などに接することは、知識・印象を深め、現場主義を育てることにもつながります。歩くこと、身体を動かすことで健康状態のチェックにもなります。まわりを見ながら、無理をせず、ゆるゆる？と行なっています。

### 2012年4月の定例活動（光が丘公園・赤塚植物園）

4月の定例活動では、大江戸線の光が丘駅（練馬区）から板橋区の赤塚植物園を訪ねました。光が丘の大きな団地の間には、香りの森公園やごみ焼却熱を使った温室もあり、マリではおなじみのパイナップル、マンゴーも見られました。

光が丘公園は開設して30年余りの60ヘクタールを超える都立公園。大きな樹木群が育っています。終わりかけたサクラの品種もありました。バードサンクチュアリがあり、カワセミやアオサギなどが見られました。オオタカも生息するとか。

昼食後、赤塚植物園に向かいました。くねくねとした裏道を行ったら、方向を間違えて、成増駅に到達。改めて住宅街を20分ほど歩き、板橋区立の赤塚植物園へ。住宅地の中の1ヘクタールほどの武蔵野の植物を主体として作られた植物園で、万葉・薬用園もあります。管理がよく、ニリンソウやリキュウバイ、ヤマブキソウ、シャガなどが花盛りでした。そして、住宅街を歩いて成増駅に戻り、15時半、解散。

曇り空で雨も降らず、さわやかな1日でした。大きな公園と小さな植物園を楽しみました。



光が丘バードサンクチュアリ



香りの森公園



赤塚植物園

### 2012年5月の定例活動（次太夫堀公園・岡本公園）

5月の定例活動は、世田谷区の次太夫堀公園から岡本公園を訪ねました。小田急線「喜多見」駅10時30分集合。急行が止まらない駅なので、行き過ぎてしまい遅れてしまった人も。

野川方面に向かい、明治初期創建の喜多見不動堂へ。国分寺崖線の崖下であり、かつては湧水があったが、現在は枯れてしまい、100m 以上も離れた場所の表流水を引いていると聞きました。そして、野川沿いを下り、世田谷区の農村イメージと小川を再現した次太夫堀公園へ。

面積は約4ヘクタール。古民家が移築してあり、水田もあります。まだ田植え前。古民家は屋根のカヤの葺き替えで、体験者を募集していました。古い農機具等の展示もあります。いくつかの民家では、鍛冶屋の再現でナイフ作りや丸太を板にする作業が行なわれていました。

ここのベンチで昼食。Nさん提供のたくさんのおかずでみな満腹。

そのあと、野川を離れて崖線下の六郷用水へ。永安寺の大イチョウ、氷川神社のケヤキ、シラカシなどを見ながら、丸子川沿いを歩き岡本公園へ。

斜面の樹林地を含む公園で、湧水があり、6月にはホタルが見られるといいます。民家園もあります。子供たちがザリガニ採りをしていました。よい天気で日差しが強く、緑陰は気持ちが良いものでした。

ここから斜面を上がり、岡本静嘉堂文庫の裏口から入ります。ここは旧三菱財閥の岩崎家の図書、美術品を展示する美術館。来館者が三々五々、連れ立って歩いていました。タイル張りの瀟洒な建物。庭には枝を大きく広げたキンモクセイがあり、斜面部の庭園にはウメを中心とした樹園地。東側には丸い屋根の廟。うっそうとした樹林地を抜けて、正門から出ました。そして、住宅地を抜けて、住宅地を東急田園都市線「二子玉川」へ。駅前に来ると、人ごみです。15時過ぎに解散。

都内という場所にある、かつての農村風景や斜面のうっそうとした樹林にふれた興味深い散策でした。



次太夫堀公園の大きな古民家



永安寺の大イチョウ



岡本公園のザリガニ採り

## 今後の定例活動は？

### ■7月：7月21日(土)

「雑木林と谷津田の風景」：(寺家ふるさと村)

小田急線「柿生」駅改札口 10:30 集合

### ■8月：8月25日(土) - 26日(日)

「サヘルキャンプ」：長野県白馬村で北アルプスの高原の自然を楽しむ。

JR 中央線「八王子」駅北口東急スクエア郵便局前 8:30 集合 (車で移動)

### ■9月：9月15日(土)

「近代農業発祥と大学の博物館」：

(駒場野公園、駒場博物館)

京王井の頭線「駒場東大前」駅改札 10:30 集合

### ■10月：10月20日(土)

「庶民派漫画とオリンピック公園」：

(サザエさん博物館、駒沢公園)

東急田園都市線「桜新町」駅改札口 10:30 集合

### ■11月：11月17日(土)

「近代洋風建築と庭園、江戸の名所」：

(旧古河庭園、道灌山 (西日暮里公園))

JR 京浜東北線「上中里」駅改札口 10:30 集合

\* 参加ご希望の方は事前にサヘルの森 (TEL:042-721-1601、E-mail:sahel-nomori@jca.apc.org) までご連絡ください。

\* 当日の緊急連絡も TEL:042-721-1601 へ

## イベント報告

### ■まちカフェ（第4回市民協働フェスティバル「まちだ地域活動カフェ！」）

1月29日に町田市の町田市民フォーラムで開催されたイベント「まちカフェ」に参加しました。

町田で活動する市民団体の紹介と交流に主眼を置いたイベントの通り、出展者の関係者の多いイベントでしたが、その分相互の交流が生まれて楽しいイベントでした。家族連れの方も多いので、バオバブの展示品などの実物で大変興味を持って見ていただきました。

中には、私の住む大和市でアフリカンドラムのチームを組んでいる方も見え、苗木募金をくださるなど新しい出会いも出来ました。（榎本肇）

### ■「森林（もり）の市」に参加しました

森林の市は、市民が森に親しみ、森林・林業の理解を深めてもらいたいと、林野庁主催で開催されるイベントです。2012年は5月12～13日に日比谷公園を会場として行なわれました。全国の「森」に関係する人々が集い、森林の紹介や森からの恵みの販売、音楽会や苗木のプレゼントもありました。

サヘルの森も参加して、写真や展示物でマリでの活動の紹介、小物販売などを行いました。マリで買って来た品物以外に数年前から西アフリカのプリント布で縫ったエプロンやブックカバーなどを売っていますが、今年は新しく支援者の方が提供下さったシルク生地で作ったシュシュ（髪飾り）や貝を布で包んだストラップ等が加わりました。いずれもプロの腕を持った会員がボランティアで製作して下さっています。一度に沢山は売れませんが、貴重な収益を生み出しています。



また、バオバブやサンショウの苗木も準備して販売しました。好評でした。店番のお手伝いに駆けつけてくれた会員もいました。

2日間とも天候にも恵まれて、多くの人々訪れ、サヘルの森の紹介ができたと思います。このようなイベントでもさまざまなボランティア活動ができます。何もできないとせず、顔を出していただければと思います。（坂場光雄）

## 活動報告

### ■横浜市立浦島丘中学校資源回収委託式に出席

2月14日、横浜市立浦島丘中学校の資源回収委託式に出席してきました。

毎年、生徒会を中心に学校を挙げてアルミ缶、牛乳パックを回収し、その収益金をサヘルの森寄付していただいています。



1988年から始まって今年で24年目になります。今いる生徒さんはもちろんのこと、先生の中にもまだ生まれていなかった人がいるとの話を聞き、改めて長い年月続けてきた活動だと実感しました。

今年は、事前にボランティアの森律子さんから委託金のお礼状を送っていただいていたので、委託式の中で読み上げていただきました。また、礼状の中に苗木配布をしているバオバブの話があり、またバオバブの絵本のコピーも同封してありました。そのため、生徒会の皆さんもどんな木なのか大変興味を持ったようで、いろいろ調べてサヘルの森も植えている有用な木として発表していました。私も、バオバブと学校林の活動の話をして、最後にバオバブの実とサヘルの森の活動紹介のポスターを生徒会の皆さんに手渡してきました。

こうしたやり取りが双方の励みになり、長く活動を続けていければと思います。（榎本肇）

## 報告会案内

### ■サヘルノ森 25 周年記念報告会

「サヘルノ森の 25 年の林づくりに関わったマリの人たち」

マリ共和国でのサヘルノ森の植林活動に関わったマリの人たちに焦点を当て、25 年間の活動の変遷をお話しします。

【日時】2012 年 7 月 28 日(土)13:00~16:30  
(開場:12:30)

【場所】かながわ県民センター4階会議室 403 号  
住所:〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2  
電話:045-312-1121 (代表)

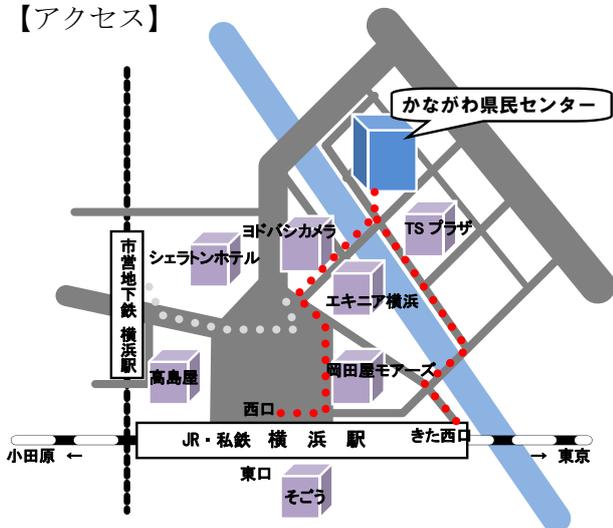
(下の地図参照)

【報告者】榎本肇 (スタッフ)

【資料代】500 円

【問合せ先】サヘルノ森 (TEL:042-721-1601、  
E-mail:sahel-no-mori@jca.apc.org) まで  
\*報告会の後、同施設別室 (3階会議室 307 号) にて交流会 (17:00~19:00、参加費:500 円) を催します。是非ご参加ください。

【アクセス】



- ・JR 横浜駅西口・きた西口を出て徒歩約 5 分
- ・横浜市営地下鉄・横浜駅出口 8 から地下街を通り「中央モール」を左折し「北 6」出口を出て、徒歩約 2 分

### ■関西でも活動報告会を開催

今秋、奈良市において活動報告会を予定しています。詳しい内容が決まりましたらお知らせします。是非、ご参加ください。

## パック回収

今年 1 月~6 月の回収状況をご報告します。回収したパックはこれまで同様 (株)山田洋二商店さんに売却し、本会の活動費として活用させていただきます。

横浜市立浦島丘中学校:640 キロ=8,960 円  
ご協力ありがとうございました。

## お知らせ

### ■サヘル 25 周年記念誌 & CD 発売中!!

- ・「我々の流儀 現場主義×流れのプランニング」  
全 56 ページ・B5 サイズ 700 円 (送料込)
  - ・「機関誌サヘル」総集編 CD-ROM  
創刊号~89 号 (約 750 ページ) + 写真 100 枚  
PDF 形式・Win/Mac 対応 1,000 円 (送料込)
- \*興味のある方への贈り物にどうぞ。  
\*詳しくは HP をご覧ください。

### 会費納入と七夕募金にご協力ください

NPO 法人『サヘルノ森』はサハラ砂漠の南縁・サヘル地域において植林活動を行う市民団体です。会員には機関誌『サヘル』が届きます。お申し込みは、振替用紙に①住所②氏名③電話番号④送金内訳(会費、募金など)⑤領収書の要不要を明記の上、郵便振替で下記口座にお振込みください。

- ・一般会員 年 5,000 円
- ・維持会員 年 20,000 円

### 特定非営利活動法人 サヘルノ森

住所:〒194-0013 東京都阿田市原町田 1-2-3  
アーベイン平本 403 (株)エコプラン内  
TEL:042-721-1601 (留守電対応)  
FAX:042-721-1704  
郵便振替口座:00170-6-115054

HP:<<http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>>

E-mail:sahel-no-mori@jca.apc.org

\*\*\*\*\*

機関誌『サヘル』No.90 2012 年 7 月 1 日発行

発行人:坂場光雄 / 編集:榎本肇

\*\*\*\*\*